

宮崎市立大宮小学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は、114年の歴史を持ち、児童数が1,000人を超す県内一の大規模校である。宮崎市街地の北部に位置し、神宮の森や平和公園などの自然環境だけではなく、近くには県立図書館や県立美術館、県立総合博物館や大淀川学習館等があり、文化的な環境にも恵まれている。

「心身ともに健康で人間性豊かな子どもの育成」を学校の教育目標とし、時代への対応と伝統を大切にしながら、「夢・実践・改革」の精神で児童一人一人の特性や能力を最大限に伸ばし、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成を目指している。

平成17年5月には、文部科学省が実施する「スクールミーティング」で、中山文部科学大臣の来訪を受け、授業参観や児童との給食、職員との懇談などが行われた。また、本校のホームページは、昨年度の「全日本小学校ホームページ大賞」では県代表に、そして、本年度は県優秀校に選ばれており、県外からも多くのアクセスをいただいている。

また保護者は、本校の卒業生も多く、読み聞かせや総合的な学習の時間などに積極的な協力が見られ、教育への関心も非常に高い。

2 児童の実態

本校児童は、全般的に明朗快活であり、友達に対して優しく接したり、ボランティア活動等に積極的に取り組んだりする児童が多い。昼休み等は元気に遊ぶ姿が多く見られるが、怪我等も多く、基本的な生活習慣の育成を含めて指導を行っている。

昨年度3年生・5年生に実施した県学力検査及び、4年生に実施したCRT検査の結果は、全国平均は上回っているものの、全体的にまだ十分に学力が付いているとは言えない状況が見られた。3年生の国語と算数はある程度の学力の定着が見られたが、4年生の国語と算数及び5年生の算数の結果は、個人差はあるものの市内でも中位的な段階にあり、さらなる学力の向上を目指した指導が必要であることが確認された。

また、本校では毎年全国標準診断的学力検査を実施【全国標準診断的学力検査（標準偏差値）】
施している。今年の5年生の過去3年間を振り返ってみると、徐々にではあるが伸びてきており、基礎的・基本的な内容が身に付いていることが分かる。

| | 国語 | 算数 |
|------------|------|------|
| 15年度(3年生時) | 53.1 | 55.2 |
| 16年度(4年生時) | 53.5 | 52.0 |
| 17年度(5年生時) | 55.7 | 56.8 |

3 学力向上に向けた経営方針

- 習熟度に応じたきめ細かな指導、読書指導、学力テストの結果の活用、サマースクール等を実施し、児童にやればできるという自信をつける。
- 各教科や総合的な学習の時間における体験的・問題解決的な学習を充実させる。
- 人間形成を目標の根幹においた指導過程を工夫し、生きる力を育成する。
- 「夢・実践・改革」のキャッチフレーズのもと、全職員が当たり前のことを当たり前に実践するために全職員の創意と工夫を生かしていく。

主題研究においては、昨年度まで国語科を中心に「自分の思いや考えを生き生きと表現する児童」を育成する研究を進めてきた。本年度は算数科において、「確かな学力を身につけ、生き生きと学習する児童の育成」を目指して、算数科におけるきめ細かな学習指導法の研究に取り組み、学力の向上を図ってきた。そこで、国語科では、読書指導を推進し、算数科では、少人数授業推進教員を中心に少人数指導の在り方や、基礎・基本の定着を図り一人一人のよさや可能性を伸ばす指導法の研究を推進していく。

また、家庭学習の手引きを利用して、それぞれの学年の発達段階に応じた学習の仕方を身につけさせることにより、「授業」と「日常指導」と「家庭学習」の3つを柱にして、児童の学力向上に取り組んでいく。



4 教育課程内の取組

(1) 授業の充実

ア 問題解決的な学習を進める学習指導過程の工夫

児童一人一人に自ら進んで考え、判断し、自信をもって表現したり、行動したりできる創造的な資質や能力を育成していくためには、問題解決的な学習を進めていくことが必要である。そこで、本校では、学習指導過程を5段階で構成し、授業を進めている。

【基本的な学習指導過程】

| | |
|------------|-----------------------------|
| ①「つかむ」段階 | 学習問題を自己のものとしてとらえる。(問題把握) |
| ②「しらべる」段階 | 見通しをもち、自分なりの方法で解決する。(自力解決) |
| ③「ふかめる」段階 | 自力解決をもとに全体やグループで解決する。(共同解決) |
| ④「たしかめる」段階 | 学習課題に対する答え(まとめ)を導く。(まとめ) |
| ⑤「たかめる」段階 | 習熟を図ったり、発展学習に取り組む。(習熟) |

イ 算数科を中心にした少人数指導の工夫

本校では、低・中・高学年に一人ずつ少人数授業推進教員が配置されている。そこで、児童一人一人に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、それぞれの個性を伸ばす教育を充実させるために、1年間を見通した単元の内容や児童の実態に配慮し、指導形態を工夫している。

| 指導形態 | 分け方 |
|---------|------------------------|
| 学級一斉 | 一斉指導 |
| グループ別型 | 均等に2つに分けた場合 |
| 学習スタイル型 | 協同解決型や自己解決型などの形態で分けた場合 |
| 習熟度別型 | これまでの達成度で分けた場合 |
| 興味・関心別型 | 興味・関心で分けた場合 |
| 課題別指導型 | 課題に対して分けた場合 |

【授業風景】



ウ 教師の指導力を高める研修の充実

算数科を中心に、全員が年間最低1回研究授業を行い、指導技術を充実させていく。

授業研究会を利用して、一人一人の教師の授業について反省するとともに、児童の変容を論文等に積極的にまとめる。

(2) 日常指導の充実

本年度から、週時程の朝の時間に「スキルランタイム」と「おはよう読書タイム」を位置付け、読書指導とスキル学習に力を入れている。

ア スキランタイム

水曜日と木曜日の朝の活動の時間（8：15～8：35）を利用して、国語科と算数科のスキル学習を行っている。本校では毎年全国標準診断的学力検査を全学年実施しているので、夏期休業中に、落ち込んでいる領域や繰り返し指導が必要な領域を分析し、学習プリントを用意し、実施している。また、少人数授業推進教員や専科の教員も参加し、個に応じた指導に努めている。

【スキルランタイム：3年生の10月計画】

| 日 | 教科 | 内 容 |
|----|----|-----------------|
| 5 | 算数 | かくれた数はいくつ(1)(2) |
| 6 | 国語 | 1学期前半に習った漢字 |
| 12 | 算数 | 10000までの数 |
| 13 | 国語 | 接続の言葉 |
| 19 | 算数 | 10000までの数 |
| 20 | 国語 | 指示語 |
| 26 | 算数 | 数直線 計算のじゅんじょ |
| 27 | 国語 | 会話文の読み方 |

イ おはよう読書タイム

○ 読書指導

金曜日の朝の活動の時間（8：15～8：35）の20分間を「おはよう読書タイム」として全校児童が読書に取り組んでいる。

全校児童が20分間、物音一つしない状態で取り組んでいくため、本は前もって自分の引き出しや机の上に用意しておき、途中で本を返したり、借りたりはしないようにしている。

【朝の読書に取り組む児童】



5 教育課程外の実施

(1) サマースクール

8月4、5、8、9日、22日～16日の9日間に基礎学力の定着を図る一つの手立てとして、サマースクールを実施した。対象は、全学年の児童の希望者とした。内容としては、国語科と算数科の習熟問題を中心に行った。

参加人数は、1年生87人、2年生78人、3年生58人、4年生87人、5年生78人、6年生38人で合計426人で、全校児童の42%であった。

(2) 読み聞かせサークルの活動

月曜日の朝の時間を利用して、大宮小学校”ひまわり”サークルの方々が、学年ごとに読み聞かせを行っている。児童も楽しみにしており、読書への意欲付けになっている。

6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 家庭学習の充実

学習内容を自分の本当の学力にするためには、授業で学んだことを繰り返して覚えたり、練習問題を解いたりする必要がある。本当の学力を身につけるための練習量は、個人差がある。

そこで、一人一人に必要な学習の時間を確保する家庭学習が大切になってくる。本校では、各学年の発達段階を考慮して「家庭学習の手引き」を作成し、家庭での時間の過ごし方を工夫させ家庭での学習時間を十分に確保させ、習慣化を目指している。家庭学習の時間のめやすとしては、低学年が約45分程度、中学年が約1時間程度、高学年は約1時間半を基準として指導している。

【家庭学習の手引き（5・6年抜粋）】

- ① 宿題や宅習の課題があったら、最初にします。
- ② その日学校で習ったことを、ノートにわかりやすくまとめます。
(分からなかったところはメモしておき、先生や家の人に聞いて解決しましょう。)
- ③ 同じような問題を解いたり、もっとくわしく調べたりしてノートにまとめます。
- ④ 明日学習することを予習します。(教科書を見る、自分の考えをまとめる、資料の準備)
- ⑤ 明日の学習の準備をします。(時間割を見て、必要な学用品をそろえます。)

(2) 個人面談

7月下旬から8月上旬にかけて、全児童の保護者を対象に個人面談を行った。4月から7月までの子どもたちの様子をもとに、学習面や生活面のこと、夏季休業中に取り組んでほしいこと、今後気をつけてほしいことなどを話し合った。

特に、学習面において2年生以上は、全国標準診断的学力検査をもとに、落ち込んでいる領域等を確認し、どのような内容に力を入れていけばよいかなどを個人的にアドバイスすることができた。

(3) 学校と地域との連携推進委員会

学校、保護者、地域の代表者が一堂に会し、地域に根ざした教育を推進し、本校児童の健全育成のために相互の連携・協力の在り方について話し合う。

特に、総合的な学習の時間等で地域の方にも協力してもらい、教育活動の支援や、その在り方について意見を交換し合うなど、よりよい連携の実現に向けて努力している。

7 成果と課題(次年度の取組を含む)

(1) 成果

- 毎年行っている全国標準診断的学力検査の結果を見ると、徐々にではあるが児童の学力は伸びてきており、基礎的・基本的な内容が身に付いてきていることが分かる。
- 朝の時間（スキルランタイム）を利用して、個別指導を進めることにより、落ち込みが見られた領域（算数科では、十進位取り記数法の問題や図形の領域）などの復習を進め、児童の理解度が高まっている。

(2) 課題

- 理科では、地球と宇宙及び観察・実験の技能・表現が落ち込んでいるので、一層の授業改善が必要である。
- 「自ら学ぶ力」、「学びを律する力」が落ち込んでいるので、問題解決的な授業を更に推進し、身に付けさせる。
- 1ヶ月の平均冊数が、6.4冊で読書の習慣が身に付いていない現状なので、朝の時間等を工夫して、更に読書指導の充実を図る。